

若者チャレンジ応援事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	子育て推進部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策3 若者や女性が活躍できる環境づくりの推進						
	目的	若者や女性が、将来に夢や希望を持ちながら、いきいきと活躍できる社会の実現に向けた取組みを推進する。						
	目標指標(R2)	若者が主体となった取組みの企画提案数(累計)	142件					
	策定時の実績	22(H27)	現状	93(H30)	主要事業	若者の地域への愛着や誇りの醸成		
事業名	若者チャレンジ応援事業費			担当課・担当	若者活躍・男女共同参画課 若者活躍担当			
事業開始年度	H25年度			事業終了(予定)年度	—			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	若者が企画する地域課題の解決や地域の元気創出活動に対し助成を行い、若者の主体的な取組みの実現化の機会を提供し、若者の県づくりの参加促進と若者が持てる力を発揮できる環境を実現する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	やまがた若者チャレンジ応援事業 若者グループ(高校生以上～39歳の2名以上)から地域課題の解決や地域の元気創出に関する企画提案を公募し、公開プレゼンテーションを含む審査を実施し、優秀な提案に対して補助金(上限1,000千円、補助率なし)を交付する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：県内若者グループの主体的な取組みを支援することにより事業目的が達成されるため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	オーダーメイド補助金	10,000	9,000					
	若者チャレンジ応援事業審査会	209	209					
	計	10,209	9,209	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	10,209	9,209					
	計	10,209	9,209	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	若者チャレンジ応援事業の制度、取組状況等の周知回数	活動実績	回	8	10			
		当初見込み	回	8	10	10	10	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	若者が主体となった取組みの企画提案数(累計)	成果実績	件(累計)	63	93			
		目標値	件(累計)	61	88	115	142	
		達成度	%	103.3%	105.7%			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

人口が減少している本県において、若者の定着は重要な課題であり、そのためには山形県が若者の活躍できる環境であり、かつ、県民全体で若者の活躍を応援する機運を醸成することが必要である。
 本事業目標は、自ら課題解決に取り組む積極的な若者団体数について勘案し設定したものである。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	若者の企画提案による取組みに対して助成し、地域で活動する若者や若者団体の活動の県民への周知を行ってきた結果、若者が主体となった取組みの企画提案数も順調に増加し、一定の成果があった。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	補助対象事業費の経費については、業務実施に必要な不可欠な費用に限定している。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	市町村との連携を進めていくが、複数の市町村に跨る広域的な活動が多く県が実施すべき事業である。
今改後の改善の課題	若者の主体的な地域活動への支援を継続するとともに、若者の活動の県民への一層の周知を図っていく。また、若者の活動が地域に波及するよう、市町村との連携を進める。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない